

第1回 櫛田川自然再生検討会 議事要旨

日時：平成23年9月27日（火） 15:40～17:00

場所：ワークセンター松阪 勤労者総合福祉センター

1. 開 会

2. 挨拶（三重河川国道事務所長）

3. 委員紹介

4. 議 題

(1) 櫛田川自然再生検討会（仮称）の設立について

- ・ 櫛田川自然再生検討会の設立趣旨及び規約（案）について説明後、内容の確認を頂き案をとることで了承された。
- ・ 座長には、委員の互選により松尾委員が推薦され了承された。
- ・ 座長の代行には、松尾座長より河村委員が指名された。

(2) 櫛田川の河川環境の現状と課題について

櫛田川の河川環境の現状と課題を説明し、主に次のような意見をいただいた。

- ・ 魚道の設置時期は、堰の完成年次と同時期かを教えてほしい。（資料-3 P6）
- ・ 魚道を実際に通った種や個体数のデータはないのか。（資料-3 P32～35）
- ・ 祓川の環境保全について、恒久的に水枯れしない導水路を設置して欲しいとの意見要望がある。（資料-3 P25）
- ・ 西黒部左岸の素掘りの用水路では、淡水魚の多様性が高い。しかし、堤内地の用水路は、冬季に水がなくなるので必要最低限の水を流して欲しい。
- ・ 東黒部頭首工下流で滞筋が右岸側に寄っているのは、河道の湾曲部の外湾であるためと考えられる。魚道が左岸側にあるのは不思議である。（資料-3 P27）

(3) 櫛田川自然再生の目標について

櫛田川自然再生の目標を説明し、主に次のような意見をいただいた。

- ・ 櫛田川と宮川の流域面積や人口等のデータは、横並びで比較すると良い。（資料-4 P2）
- ・ 縦断的連続性の確保について、国土交通省だけではできない部分もある中、どのように提案していけばよいかイメージできない。
- ・ 魚道の構造がどのようになっているか（縦断形、隔壁の形状、流量増加時の流れの状況など）を整理することで具体的な議論ができる。
- ・ この検討会の狙いは、頭首工の魚道を改良すれば回遊魚がのぼれることを考えることでよいか。
- ・ 櫛田川の魚類数は祓川や農業用水路が支えているので、櫛田川の自然再生は魚道の改良だけでなく、それを見ながらやらないといけない。

- ・宮川で堰のない歴史的背景や櫛田川で本当に堰が必要かというそもそもの議論が必要と思う。
- ・アユ文化を回復するのは良いが目標設定が高いと思う。目標設定は、歴史的背景から住民の地域ニーズなどを踏まえ、もう少し現実的な目標とした方が良い。(資料-4 P4)
- ・櫛田川第一漁協の管内は、堰が連続して分が悪いところである。しかし、天然アユの遡上や産卵場といった一番大事なところであり、連続性の回復をお願いしたい。
- ・アユをのぼらせるのはよいが、湛水域が連続するため、どこでアユが釣れるのかが気になる。アユを釣って食べることでアユ文化の再生になると思う。(資料-4 P4)
- ・アユは全国的にも良くないと思う。櫛田川では、下流で採った天然アユと湖産アユを放流するが、琵琶湖のアユも下流の稚魚も採れなくなっている。出水で土砂が蓮ダムに入り、水の濁りが引くまで時間がかかるなど、アユの生息に影響を与えていると思う。
- ・宮川ではアユで占いをやっている。櫛田川の水運、狩川はあったが、文化的なものはあまり記憶がない。(資料-4 P4)
- ・魚道改良による先行事例があれば教えてほしい。
- ・ワンド、たまりなどの堤内地側の氾濫原的環境が重要である。堤内地になるとなかなか手をつけられないので、本川での湿地的環境の再生を考えることで、魚類の多様性が増えることにつながる。
- ・生物が少なくなった要因の分析は非常に難しい。委員は、研究して提示することが役割だと思う。
- ・アユ釣りは楽しみのひとつであり、それができなくなっているのは問題である。

(4) 今後の予定

今後の開催予定について説明を行った。

5. 閉 会

【現地視察】

検討会に先立ち、下記の箇所について現地視察を実施した。

- ・河口干潟
- ・東黒部頭首工
- ・櫛田川第二頭首工
- ・櫛田川第一頭首工
- ・櫛田可動堰
- ・祓川分派点（祓川水門）
- ・両郡橋

以 上